

特37

501

大日本圖書會		
第三室		
三册	六号	四架

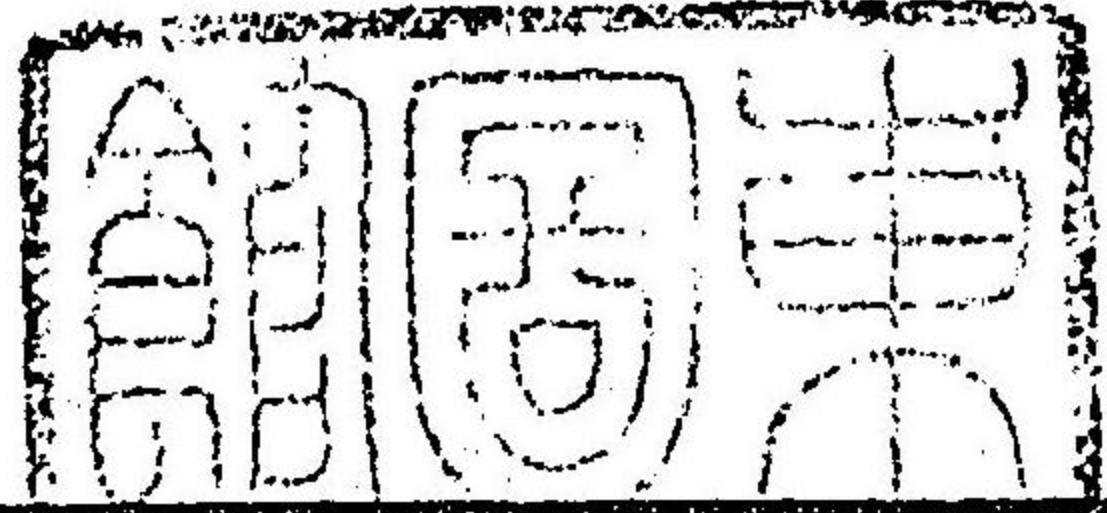
石阪堅壯口授
神詩有隣筆記

博物新編記聞

中

第三三三號

明治十九年五月七日文部省交付



博物新編紀聞卷中

備前

石阪堅壯 口授

備中

神崎有隣 筆記

○蒸氣論條

一千七百寸之廣

廣ハ高ノ誤ナルベシ

李白之千里江陵

李白イカ早發ニ白帝城詩ニ曰朝辭ニ白

帝彩雲間。千里江陵一日還。兩岸猿聲啼不住。輕舟已過萬重山。此詩ヲ引テ其歌行ノ快ヤキヲ云也

鐵軌

軌車轍也。ワダチト訓ス車ノ往來スル路

ヲ鐵ニテ造リタルト云ナリ

埒

小堤也。鐵界也。按ニ鉄ヲ以テ小堤ノ如キ者

ヲ作り之ヲ道路トナシ車輪ヲ啣チヤキマシメテ外

ニハツレヌ為ニ造リタル者ナルベシ

埒

音弄。穿穴也。山腹ヲ埒ホリテ隧道ヲ作ルトナリ

隧道トハ地中ヲ往來スル道ナリ左傳隱公元

年。闕地及泉隧而相見ト云是ナリ

制汽勒輪

勒ハ馬ヲ制スル手繩ノ類ナリ故ニ

オサヘ或ハヒカヘナド、訓ス蒸氣ノ度ヲ制

シ車輪ヲ勒スルトナリ

鎮日

鎮ハ填ノ義ナリ丁度其日一パイニ來ル

ト云トナルベシ

埠邑

埠水瀕也。商船之所泊也。今世ノ神戸横濱

ノ如キ通邑ノ開港場トナリ

搭

打也。附也。其用キ法ニ因テ意味種々ニ變ル

ナリ搭賓ハ賓ヲ引附ルトナリ寄搭ハ寄セ搭

トナリ

鞞

音幼。車ノ機ナリ

窓榻

榻、扉也。窓ノトビヲナリ硝子ヲ貼タル窓

ナリ故ニ玲瓏ト云

囂鬧

囂ハ囂ノ誤ナルベシ音傀呼也。鬧ハ音鏡ニョウ擾也又不靜也。サハガシキコナリ

就章

就章等ノ事アレハ本文ノ義ニ稱ハズ因テ本文ニ就テ考フルニ誠客商往來之最便。而貨物寄搭之就章者也。トハ貨物ノ寄搭ヲ手捷取扱テハヤクコナルベシ最便ト就章ト對句ニシタルナリ就章ハ成就シタル意ナルベシ

水龍

幹館

幹廻也。旋也。館与轄同ネジクサビナリ

活厭

活ハハタラクト云意ナリ厭ハ壓ト同ジトニテオサヘフタナリ開合自由ニハタラクオサヘフタノコナリ

汽櫃

鉄鍵

鍵ヤク鑰ク也。關門有鍵以止ト字書ニ見タリ鉄ニテ鍵ノ形ノ者ヲ造リサシ込テ上下自由ニシタル者ナルベシ

鏢

音葉銅鉄推鏢成片者曰鏢猶一葉二葉ト云テ數フルガ如シ

脛合

脛音吻合也。隙間ノナキ様ニ肌ノ合タルコナリ

火燼

煇炭

煇音海。按煇煤ノ字ト通ズルカ石炭ノ一

名煤炭ト云然ラバ石炭ノトナルベシ

脂輶

輶ハ車ノ脂ヲ盛ル器ナリ

○水質論條

元質五十有六

元質ハ所謂元素ナリ近世益發

明シテ現今六十有五種トス

如人身之質得五十六種之十四

一説十五ヲ得

ト云即酸素。窒素。水素。炭素。硫。磷。曹多。加里。加爾基。珪土。格魯兒。滿瓦。涅叟。母麻。偈涅。叟。母。弗律。阿偈。母。等ナリ之ヲ人身ノ大成分ト云

鑽石

金剛鑽ノトナリ為五十六種之一トハ鑽

石ハ純粹ノ炭素一種ノ成分ナリト云トナリ

兩端齊應也

註文ニ如以一長杉云々。按堅物

長杉ノ如キヲ以テ下端ヲ推セバ上端進ミ下

端ヲ牽バ上端退ク必兩端一齊ニ相應ズルガ

如キヲ云ナルベシ

玻璃三倍

玻璃ノ下ニ恐クハ重ノ字ヲ脱ス宜

シク補フベシ

無金

孟子公孫丑下曰於齊王餽無金一百兩云

々註云無金好金也其價無倍於常者トアリ最

水之為性

上ノ好金ノ丁ナリ

無法可識有驗者云々

舶來ノ一本ニ無法可驗

有識者ニ作ル是ニ似タリ蓋上下轉倒シタル

ナルベシ

漕運

騾馬

騾音羅。驢父馬母所生也。牡ハ驢馬ニテ牝

ハ常ノ馬ノ生ム所ナリ

馮河

論語ニ暴虎馮河云々河ヲ歩渡スル丁也

失水

誤テ水中ニ没スル丁ナリ

人身肉質

漂余

余音吞水推物也水ニ浮ビ漂フ丁ナリ

鍵埋

二字共ニ字書ニ之ナシ按ニ製字ナルベ

シ強テ之ヲ解セバ鑊ハ金ニ从ヒ邊ニ从フ埋

ハ土ニ从ヒ呈ニ从フ呈ハ平也言ハ土器ノ邊

縁ニ金屬ノ覆輪ヲ平呈シタル義ナルベシ然

則從來清舶ノ持渡ル瓦器ノ邊縁ニ黃銅ノ覆

輪ヲ施シタルトリノコト稱スル器ノ類ナル

ベシ下文ノ化汽欲出ノ文ニ由レバ此器邊縁

ニ覆輪アリテ水力均分セント欲ル片瓦質ハ

急ニ膨脹スル比邊縁ニ覆輪ヲ以テ箍束スル

故ニ其平均ヲ失フヲ以テ破裂スルト云意カ

此説杜撰ヲ免レズト雖姑録シテ後考ヲ俟シ

鼻巴木桶

未詳異邦ノ樹名ヲ音譯シタルナル

ベシ木質脆軟ニシテ破裂シ易キ材ヲ以テ桶ニ造リタル者ナルベシ畧吹口氣筒中ト云文ニ由レバ桶ニ密蓋アリテ我邦ノ酒樽ノ類ナルベシ

○泳氣鐘條

局成

局促也。セマルト云フニテ鐘中ニテ促成スルコナリ

担攝

担音且。取也。攝ハ收ムルナリ

撈

音牢。沉取也。水中ニ沉テ物ヲ取ルコナリ

○却水衣條

印度國有大樹云々

ヒキヌス樹及エウホルヒウ

ム樹ト云者ノ類ヨリ一種乳汁ノ如キ護膜膠ヲ滴出ス之ヲコトシク質ト云所謂エラスタカゴム是ナリ其質粘靱ニシテ彈力アリ西洋ニテ此物ヲ以テ種々ノ器械ヲ造ルト云象皮 按ニエラスチカノ質粘靱ニシテ彈力アルト象皮ニ似タルヲ以テ粵ノ俗ニテ然カ呼ナルベシ

紐屈

紐ハ結也。腋下ノ革筒結テ屈スルコナリ

○海水論條

涌澁

涌澁字、字書無之。字典曰。谷、古文作容。音抗。徐鉉曰。口象山門。八、辨冰。象土上。少水也。トアリ。按ニ澁ノ字合ニ从ガヒ八ノ字ト口ノ字ノ中間ニ江ノ字ヲ挿サ三更ニハノ字ヲ冠シムハ、音覓。覆也。ト字書ニアリ然則土沙江口ヲ覆ヒ涌水減少スルノ義ニ取モ知ルベカラズ字音ノ施スベキナシ因テ姑ク抗ノ音ヲ借リ後考ヲ俟ツ

元明粉 又玄明粉ニ作ル本艸書ニ苾硝ヲ三種ニ分ツ始製スル者ヲ朴硝ト云再製ノ者ヲ馬

牙硝ト云三製ノ者ヲ苾硝ト云元明粉ハ馬牙硝ヲ以テ製スルヲ載タリ又西醫略論附録ニ横文ヲ以テガローベルソードト書シ傍ニ元明粉ト譯字ヲ施セリ然則名物考ニ所謂瓦老別利塩ニシテ字田川氏之ヲ苾硝ニ充タリ

灰物 格物入門ニ加榴母ヲ譯シテ灰精ト云此ニ由バ灰物ハ加榴母ノヲナルベシ加榴母ハホッタアスノ元素ナリ

噴呢沙

マグネシヤノ音譯ナルヘシ

灰海

如德國ニ一奇海アリ其水甚鹹ニシテ凝

結_レ氷_レ脂_レノ如シ絶_テ波浪ヲ揚_ゲズ木石ノ類ヲ
 投入スレ_レ凡_レ沉ム_レナシカラ_テ極_テ投入スレ_レ凡_レ
 及入スル_レナシ國王曾_テ人ヲ沉ム_レ凡_レ入ル_レ
 ヲ得_ス海水日ニ映_ジテ五彩ノ色ヲナス絶_テ
 生族ヲ生セ_ス因_テ死海ト名_ク按_ニ此水地下
 ニ石腦油_ノ琥珀_ノ類アリ_テ火脈ニ熔_解セラレ
 テ油トナル者ナルベシ

永無_ニ涸_ル西江之患

涸_音鶴_也水ノ竭_ル也

莊子家貧_シ人ニ急_テ救_フン_レヲ乞_フ其人ノ曰_ク
 我近日大金ヲ得_トス今暫_ク待_テ子ヲ救_フントス

可ナランヤ莊子忿然トシテ曰_ク昨途中ニ於_テ
 車_轍中ニ_ニ鮒_ガ水ノ涸タルヲ苦_シニ居タル傍ヲ
 通_リシニ其鮒我ヲ呼_テ曰_ク吾ハ東海ノ波臣タリ
 我ニ斗外ノ水ヲ与_テ急_テ救_フクレンヤト因_テ
 我答_テ曰_ク今暫_ク待_テ西江ノ水ヲ激_テ汝ヲ救_フント
 ス可ナランヤト鮒忿然トシテ對_テ曰_ク若_シ君ガ言
 ノ如_クナラハ早ク我ヲ枯_レ魚ノ肆_ニ索_ムルニ
 如_ズト今此故事ヲ別_テ水ノ自由ナルヲ云_フ也

化腐臭_ニ為_ニ神奇_ノ人皆有_ニ林逋_ノ不能_レ之_ノ概

莊子曰_ク萬

物一也其所美_ク者為_ニ神奇_ノ其所惡_ク者為_ニ腐臭_ノ復_テ化

為神奇。神奇復化為腐臭。云々○林逋ハ林和靖
 ト云人ナリ梅ヲ愛シテ孤山ニ隱遁シ宋ノ時
 高名ノ人ナリ墨客揮犀曰林和靖曰世間事皆
 能之唯不能掃糞與着碁爾ト今此故事ヲ引テ
 昔林逋カ糞ヲ掃除スル丁ハ不能ト云ハレタ
 ガ今ノ人々モ同ジ概テ誰モ糞ヲ掃除スル丁
 ハ好マヌ丁ナリ實ニ此概ハ大小便ニ屬テ起
 ル丁ジヤ今嘆涼ニハ水カ自由ナル故ニ奇麗
 ニナツタト云丁ナリ概ハ感觸^ノ心也ト字書
 ニアレバ俗ニ云心持ト云意ナリ

○光論條

日鏡夜鏡

日鏡ハ原名ゾンガラスト云太陽ヲ
 窺フ鏡ナリ夜鏡ハ原名ナフトケイケルト云
 夜分ニ天文ヲ窺フ鏡ナリ

撮景鏡

從前ハ此鏡ヲ寫真鏡ト呼デ遠方ノ景
 色ヲ鏡ニ寫セバ箱ノ上ノ硝子盤ニ寫リテ重
 寶ナル器ナレト近世玩フ寫真鏡ノ如ク景色
 ヲ留メ置丁ハナラヌナリ原名ドンクルカ
 ムルト云

映畫鏡

近世玩フ所ノ寫真鏡ナリ先哲印象鏡

ト譯ス此鏡二種アリ一ヲダケユロテ一ピ
ト云一ヲボトカラピ一ト云甲ハ銀版ニ寫ヲ
以テ便ナラズ乙ハ硝子板或ハ紙ニ寫ヲ以テ
大ニ便ナリ

燐光 ホスポルト 稱スル者ニテ磨燭奴ナドニ
用キル者是ナリ

其數有七合則為白 三稜玻璃ヲ以テ七色ヲ紙

上ニ顯シ、後再他ノ三稜玻璃ヲ以テ紙前ヲ
遮ルキハ復白色トナル此其據ナリ又七色ヲ
圓版ニ画キ急ニ之ヲ廻轉スレバ白色ヲ寫ス

又七色ノ細砂ヲ研勻スレバ復白色トナル皆
同一理ナリ七色ノ譯名諸書異同アリ初學ノ
惑ヲ生セントテ恐テ表ヲ作テ左ニ掲ゲ并ニ
圓版ノ七色白色ヲナスノ圖ヲ作ル

異同表	本編	他書
色母一	紅	赤 又紅
間色二	橙黃	深黃 又丹黃 又橙黃
色母三	正黃	淡黃 又黃
間色四	綠	綠
色母五	藍	石青 又淺青

間色六 老藍

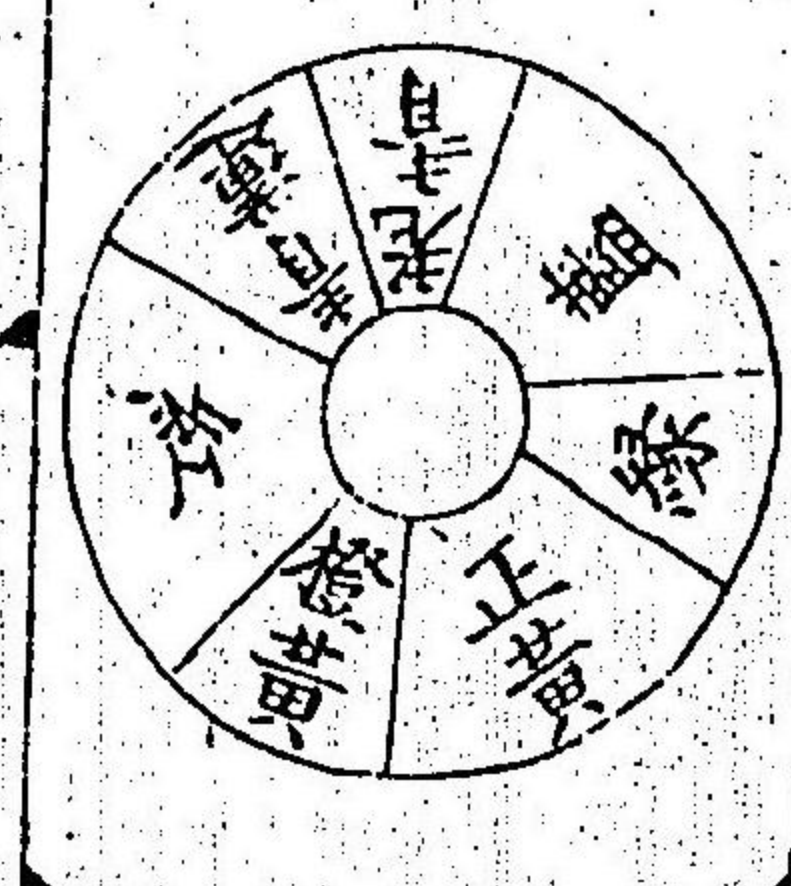
六 紫

又濃青
又深青

今七 青蓮

七 紺

又紫
又董花
又桔梗色



上圖ノ如ク圓版ヲ作り七色ヲ塗リ
獨樂子ノ如ク急ニ廻轉スレバ板面
全ク白色ニ變ズ

蜻蛉

蜻ハ蝶ニ作ルベシ虹ノ丁ナリ詩經ニ蝶
 蛸在東ト是ナリ蝶又作蛸共音帝也

海市蜃樓空船

漢說ニ蜃ハ蛟ノ属ナリ能氣ヲ
 吐テ樓臺城郭ノ狀ヲナス之ヲ蜃樓ト云又海

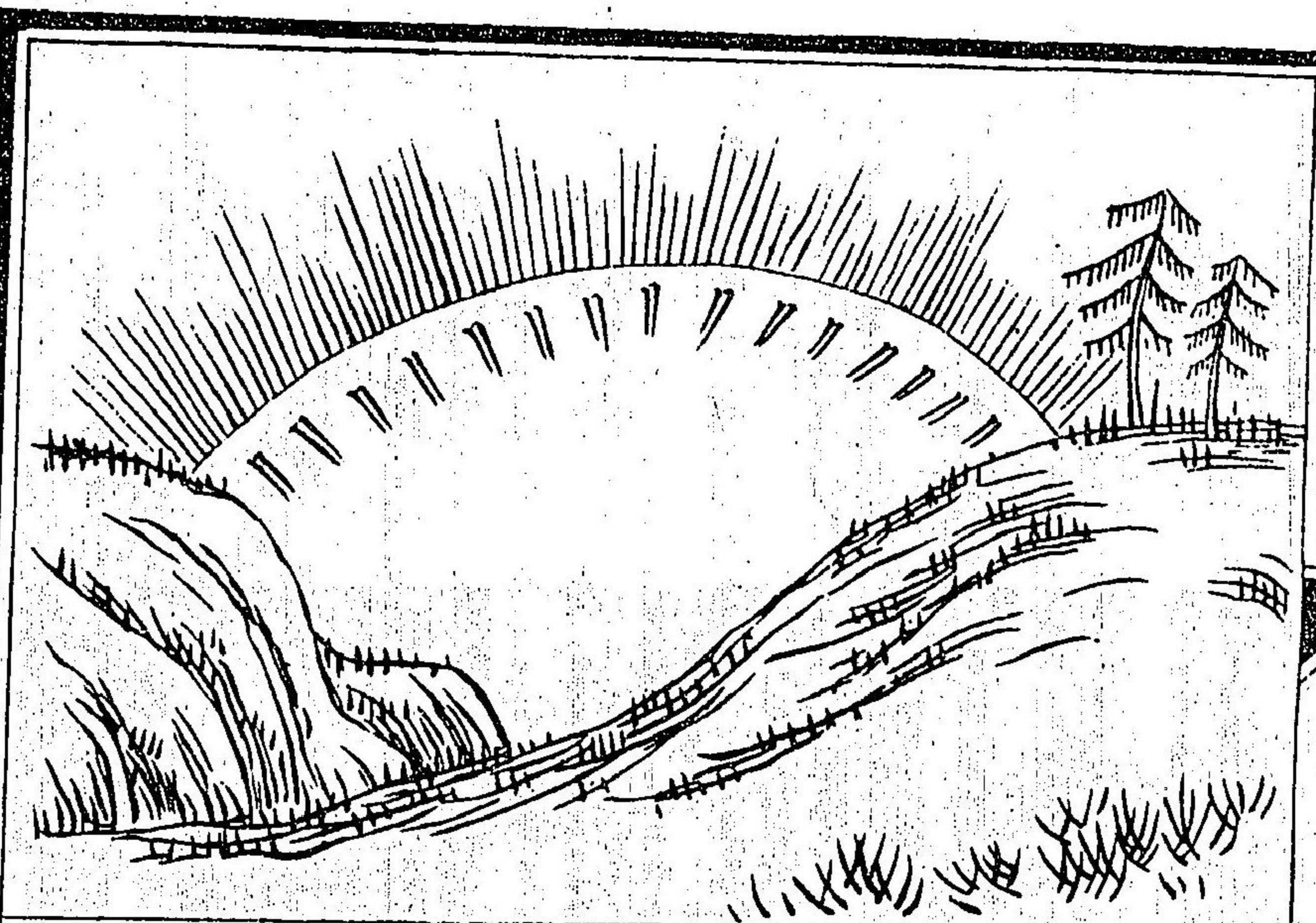
市トモ云又倍間ニ蜃ヲ大ハマグリト訓スル

ハ誤ナリ器具ノ模様ニ大ナル蛤ガ龍宮ノ樓
 門ナドヲ吹出シタル圖アリ皆無稽ノ事ナリ
 空船モ同ジコニテ皆大氣ノ變ヨリ空中ニ船
 ノ狀ヲ反射シテ見ハス者ナリ

空橋

形ニ由テ名クルナルベシ原名ノールド

リクトト云北光ノ義ナリ北極近地ニ於テ常
 ニ見ル所ナリ又南極近地ニモ同様ノ光アリ
 之ヲ南光ト云皆電氣ノ作用ナリト云此北光
 變幻一ナラズ或ハ滿月ノ昇ルガ如ク或ハ之
 ニ反シテ一方ヲ照ス丁アリ其光明亮ナルニ



至テハ其色綠色ヨ帯ビ或
 ハ其邊綠虹ノ如ク天ニ亘
 リ二十五度若クハ三十度
 或ハ百八十度ニ及ブアリ
 壯麗ナル光象ニシテ隱顯
 出沒倏忽變幻極リナシ其
 狀態筆紙ニ盡スベカラズ
 其詳説ハ此編ノ主意ニア
 ラザレバ此ニ贅セズ上圖
 ハ『ハンデンビュルク』
 人名ノ理

學書附録ニ載スル所ノ北光ノ圖ナリ

跟蹌

行不正貌也。足ノヨロヅクコナリ

數武

武ハ跡ナリ數武ハ猶數歩ト云ガ如シ

昧爽

夜明ノコナリ其形恰夜明ニ東方ノ既白

スル如クニ見ルヲ云

啓暝

『三ニ』トノ音譯ナリ即一分時ナリ

軌道

諸遊星ノ行道ナリ

匪夷所思

易渙六四曰。渙有丘。匪夷所思。言非常

人思慮之所能及也。夷ハ常ナリ即常人ノコナ
 云ナリ化工ノ妙造ハ常人思慮ノ及ブ所ニ非ズト

云ナリ

霧葉

霧與微通。繖也。州木ノ葉ノ腐リタルナリ

諛々

音速。松風ノ聲ナリ

イナリ

イ音赤。イ音觸。小歩ナリヌキアシシテ行

○電氣論條

孤陰

原名「ネガチ」ト云先哲譯シテ消極或ハ

減極ト云

獨陽

原名「ホシチ」ト云先哲譯シテ積極或ハ

增極ト云

紫梗

原名「ラッカ」ト云端及蠟ノニ味ヲ煉シテ錠

トナシ書翰等ノ封處ニ貼ス故ニ封臘ト云或

ハ丹ナドヲ加テ赤色ニナス者アリ

瘋癱

瘋ハ頭痛ナリ癱ハ筋脈拘急麻痺不仁ノ

病ナリ所謂中風ナリ

一銅片一精錡

註曰精錡之貨類似白鉛云々白

鉛ハ錫ノ一名トス格物入門ニ所謂白鉛ハ即

本編ニ所謂精錡ニノ本邦ノ坊間ニ亞鉛ト呼

フ者ナリ蓋同名異物ナリ混同スルヲ勿レ

虫

音蟲器ノ中虚ナル者ヲ云

白銅

物理小識曰。以砒霜等藥製煉為白銅云々
又本州綱目時珍曰。白銅出雲南云々是ハ自然
ノ者ナリ舍密開宗ニモ亦砒ニ銅ヲ和シテ白
銅ヲ製スルノ法ヲ載ス一説ニ銅ニ亞鉛ヲ和
シテ潢銅ヲ製ス亞鉛ノ量差多クシテ白色ヲ
帶ル者ヲ白銅ト云ナリ

酥麻

酥音蕪牛馬ノ乳ヲ以テ酪ヲ作り其上清
ヲ取テ酒ニ製シタル者ヲ酥ト云竇革酒譜曰
天竺國謂酒為酥トアリ然則酥ハ酒ノ丁ナル
ベシ按ニ酥ハ猶醉ノ如キカ言ハ酥ヲ飲テ醉

タルノ義ニ取ナルベシ麻ハ麻痺ノ丁ニテシ
ビレト云義ナリ然ラバ酥麻ハ全身麻酔スルト
云丁ナルベシ

一小銅球

註曰。圓如金頂樣言ハ銅竿上ノ小球
ノ其大サ金貨ノ頂ノ圓サト同様ノ大サト云
丁ナルベシ

傀儡

人形ツカヒノ丁ナリ
音通燈心艸ノ一名ナリ

玩耍

耍音沙上声也戲ナリ

靚面

靚音狄論語曰私靚愉々如也是ナリ眼前

ニテ談話スルコトナリ

站

音佔久立也。又坐立ノ不動貌也。俗ニ云立場或ハ休息所ノ類ナリ

塙

望也。以テ望烽火也。ト字書ニ之アリ俗ニ云物見番所ノ類ナリ

製樹津筒套而護之

樹津ハ松脂ノ類ナリ筒套

ハ銅線ノ上ニ松脂ヲ塗テ套ニスルコトナリ編

ク塗リマハス故ニ筒ノ如クニナルヲ云ナリ銅線

ノ鍔ヲ防ギ且電氣ヲ他ニ洩ラサズルガ為ナリ

首傳取音次傳取韻

單出為聲成文為音音員合

為韻音韻區別既如此例之王字ノ下ニ兩方切

音徨トアレバ則其兩方切ガ所謂單出為聲ト

云コニテ即音ナリ其兩ト方トノ二韻合ンタ

ル所デ徨ト云韻ヲ產出シテ平聲ノ韻ト云コ

ヲ知ルナリ儲每字ノ側ニ一ノ鱗△ヲ点シ平

上去入ノ四等ノ韻ヲ分ツコトナリ如此左側

ノ下ニ△ノアルハ一等字ニテ平聲ナリ左側

ノ上ニ△ノアルハ二等字ニテ上聲ナリ右側ノ

上ニ△ノアルハ三等字ニテ去聲ナリ右側ノ

下ニ△ノアルハ四等字ニテ入聲ナリ故ニ本

文ニ一扣^ヲ為^レ平ト云テアルハ一等字ハ平聲ナルガ故ナリニ扣^ヲ為^レ上トアルハ二等字ハ上聲ナルガ故ナリ他ハ準ジテ知ルベシ

或礬石或青塩或鹼等

礬石ハ明礬ノ丁ナリ青

塩ハ同名多シ伍^イ乙^{ウツ}本州書鹵石部ニ青塩一名戎塩トアリ五車韻府ニ礮蓬塩晶ヲ名ケテ青塩トス化學初階ニ藍塩俗ニ胆礬ト名ツク青塩俗ニ青礬ト名ツクトアリ蓋胆礬ハ硫酸銅青礬ハ硫酸鉄ナリ青礬ハ本邦ノ俗ニ所謂綠礬ナリ本編ニ所謂青塩ハ註文ニ胆礬之中有

紅銅ト云文ニ由^レバ胆礬ノ丁ナルベシ按ニ胆礬モ一種ノ金屬塩ニシテ其色青ナルニ由テ

胆礬青礬互ニ通シテ青塩ト云ナルベシ但伍乙ノ本草書及五車韻府ニ所謂青塩ハ同名異物ナリ鹼ハポ^ットア^スノ丁ナルベシ五車韻府ニポ^ットア^スヲ鹼沙ト云廣東新語云廣人以^テ山

蕉豆枝或黄花萹燒^テ而沃^テ之^ニ而熬^リ其灰以為^ス鹼熬深則成^ス沙曰鹼沙熬淺則成^ス水曰鹼水以^テ鹼沙為^ス角黍光瑩而香以^テ鹼水滌^レ衣去^ニ油膩色轉鮮好トアリ此ニ由^レバ鹼ハポ^ットア^スナリ一名ヲ加里

トモ云

黒鉛屑

石筆ノ中ニ入タル墨ノ如キ者ヲ云ナリ原名ポトロドト云鉛ト炭素ト抱合シテ成ル者ナリ一種石筆ヲ造ルノ用ニ供スルゲラヒトト称スル者アリ此物ハ鉄ト炭素トヨリ成ル黒鉛屑トハ別ナリ

糝劃痕

糝ハフリカケルト云意ナリ山水人物等ヲ畫シタル模ニ黒鉛屑ヲ糝スルハ其鑄物ヲ模ヨリ枝易キ為ニスル者ナリ

遂成吸鐵

人造ノ磁石ニシテ所謂マグネットノ

トナリ

置一呆鐵

字書ニ呆字古文某字也。今俗以爲痴獸字誤也。トアリ借呆鉄ヲナマクラ鉄ト見ル説モアレ氏一本ニ常鉄ニ作りタル舶來書アリ常ノ鉄ト云トニテ吸鉄ニ對シテ云ヘルナルベシ吸鉄ハ鍊成シタル者故常鉄ニ從フヲ穩當トス

電氣魚

原名シッテルロフ及ベールト云ヘル魚類ヲ総テ電氣魚ト云亞米利加洲ノ江湖ニ産ス形鰻鱺ニ似タル魚ナリ之ヲ動物性

越歷ト各ク又補遺ニ味_エ魚ト云魚ヲ載ス
皆同類ナリ是格物入門ニ載スル所ノ麻魚ナ
ルベシ

○天文論條

覆載

猶天地ト云ガ如シ莊子大宗師篇曰天無_レ
私覆地無_レ私載云々又同書德充符篇曰夫天無_レ
不覆地無_レ不載云々等ノ語ヲ節取シタルナリ

彼蒼

躔伏

天ノ了ナリ詩經ニ彼蒼者天ト是ナリ
躔歷也所謂星之躔次星所履行也ト字書
ニ見タリ躔ハ星ノ天ヲ運行スル了ナリ伏ト

ハ時トシテ見エヌ様ニナル了ナリ

造化真宰

支那ニ所謂上帝是ナリ真宰ノ字面
ハ莊子ノ齊物論ニ見タリ

何莫而非真宰云々

按經傳釋詞曰而猶以也用
民篇曰處次官執利勢不可而不察於此凡言可
而者皆謂可以也此例ニ據レバ而ノ字ハ以ノ
字ト通スルナリ

朝乾夕惕

易乾九三曰君子終日乾々夕惕若厲
无咎又魏邯鄲子淑受命述曰治詠儒墨納策公
卿昧且攷々々惕乾々註曰乾々不息也トアリ

朝夕勉強シテ息マザルヲ云ナリ

俯察仰觀

易曰仰以觀於天文俯以察於地理此

凛監臨之念

凛ハ慄ト通ズ畏敬ノ貌ナリ書泰

誓百姓懍々是也論語周監於二代郁々乎文哉

監ト鑒ト同シ又戰々兢々如臨深淵ト云語マ

リ鑒臨ノ字ハ此等ノ文ヨリ節取シタルナル

管窺蠡測

東方朔答客難語曰以管窺天以蠡測

海云々其他此語諸書ニ見タリ蠡ハ貝壳ナリ

言ハ貝壳ヲ以テ海ノ水ヲ測リ管ヲ以テ天ヲ

飲水思源

庾信微調曲飲其水者懷其源トアリ

本源ヲ忘レヌ義ナリ言ハ此略論ニテハ所詮

高深ヲ裨益スルニハ足ガレ凡此書ニ由テ初

學進歩一助トモナラハ勸善ノ一道ニシテ

即上帝ノ鴻恩ニ報スル所以ナリ水ヲ飲トハ

上帝ノ恩澤ニ潤ソト云源ヲ思フトハ其恩

○行星論條

又遊星或ハ惑星等ノ名アリ

二十八宿

支那人ノ定ムル者ニシテ西説ニア
 ラズ皆恒星二十八坐ノ名ニシテ每坐大小齋
 シカラズ度分多少アリト雖モ周天ヲ東西ニ
 圍繞シテ三百六十度ヲ盡セリ凡恒星其處ヲ
 動かストハ雖其實ハ常ニ東行シテ一歳ニ五
 十一秒ヲ進ミ七十年ニシテ一度ヲ差フ之ヲ
 恒星ノ歳差ト云二十八宿ノ順序左ノ如シ
 角。亢。氐。房。心。尾。箕。以上七宿東方ニ配セリ
 斗。牛。女。虚。危。室。壁。以上七宿北方ニ配セリ
 奎。婁。胃。昂。畢。觜。參。以上七宿西方ニ配セリ

俗ニ破
軍星云

井。鬼。柳。星。張。翼。軫。

以上七宿南方ニ配セリ

北斗七星

一名珠斗一二三四ノ星ヲ魁ト云五

六七ノ星ヲ杓ト云

西人ノ大熊星ト名ル者ハ蓋此七星ノ一ナルベシ

天乙紫微

天乙星紫微星ナリ共ニ恒星ノ一種

ナリ

噉士時

又ヘスタト云此星ハ紀元千八百七年

我文化ニアルベルス氏ノ創見ニシテ其中徑

六十里許ノ小星ナリ太陽ヲ距リ四千九萬里

ト云我邦ノ里法

噉厘士

又ピアッ星ト云此星ハ千八百年我寛政十

年^ニピ^アシ^氏ノ創見ニ係ル故ニ其人ノ名ヲ以テ直ニ星ノ名トス中徑三百五十二里大陽ヲ距^ル丁五千八百萬里ト云

啤拉士

又^パラ[、]ス^ト云此星ハ千八百年ニオ

ルベルス氏ノ創見ニシテ中徑四百五十里大陽ヲ距^ル丁五千七百萬里ト云

珠那

又^ヂノ^ト云此星ハ千八百四年^{我文化元年}

ハルゲンク氏ノ創見ニシテ中徑三百零九里大陽ヲ距^ル丁五千六百萬里或ハ五千五百萬里ト云

以上ノ四遊星ハ火星ト木星トノ間ニ在テ大陽ヲ一周ス其行道互ニ出入ス或曰此四星ハ本一遊星ナリシニ其内部ニ大變アリテ劇シク破裂シテ四小片トナリ飛散セシニ其片々彼此ノ引力ニテ更ニ位ヲ定メ諸遊星ト同ク大陽ヲ巡ル者ナルベシト云々

次土星次再段星

次土星ノ下ニ次^於呢^瘴士^ノ

四字ヲ補フベシ

再段星

又^ネプ^チン^ノ或ハ^ネブ^チネ^ト云又

海王星トモ云直徑距離未詳

五帝、東方
青帝、南方
白帝、西方
赤帝、北方
黑帝、中央
黃帝、ナリ

樞紐

字書ニ五帝之精黃則含樞紐ト云語アリ

樞ハ戸ノクロ、ト訓ス紐ハヒモヲ結び付ル
意ナリ凡テ樞ハ物ノ中心ノ丁ニテ諸遊星ノ日
輪ヲ中心トシテ結び付タル如クニ運行スル
丁ヲ云ナリ

土星次之於啞瘴士又次之

土星次之ノ下ニ聶

段星次之ノ五字ヲ補フベシ

於啞瘴士

一名天王星。又穀星ト云此星地球ヨ

リ大ナル丁七十倍大陽ヲ距丁四萬萬里直徑
七千二百四十里ト云

聶段星則一百九十六分

此十字ハ當ニ於啞瘴

士則一百九十六聶段星則三百八十八分ニ作
ルベシ

○日離地遠近論條

其理本難罕譬而喻也

禮學記其言也約而達微

而臧罕譬而喻可謂繼志矣註罕譬北方之辞ト
アレバ北地ノ方言ナルベシ罕ハ希也鮮也寡
也共ニスクナキ意ナリ然ハ簡ナル譬ヲ以テ
喻ガタシト云丁ナルベシ

○四大洲論條

阿理曼

アレマニヤノ音譯ナルベシ西史ヲ按
スルニ初アレマニヤ後ローマト改ム又東西
ニ分レ東帝ヲローマトシ西帝ヲイタリヤト
ス又カールレ帝獨乙ヨリ興テ乱ヲ平ケテ西
帝ヲ以シ位ニ即キ國号ヲゼルマニヤト改ム
其後東帝トルコノ為ニ以サレ終ニ東西一致
シテゼルマニヤヲ正統トシテ各國之ヲ仰グ
今ノ獨乙帝是ナリ

吸荷蘭

吸ハニューノ音譯ナリ按ニニューハ新ノ
義ナリ即新荷蘭ナリ所謂豪斯多刺里洲是ナ

リ近世荷蘭人始テ此島ヲ見出シタルヲ以テ
此名アリ

墨息哥及滴些斯

共ニ北亞墨利加洲中ノ國ノ

名ナリ

四份

份ノ字ハ彬ノ字ノ古文ナレ凡コ、ニテ
ハ分ノ義ナリ按ニ近來支那ニテ洋書ヲ譯シ
タル書中多ク偏傍ヲ加ヘタル者アリ例之布
ノ字ヲ佈ニ作ル等ノ如シ份ノ字モ其例ナル
ベシ蓋彼俗習ナルベシ

○萬國人民論條

甚麼云々

猶如何ト云ガ如シ言ハ如何ノ豪傑
 強勇智力ヲ争フトモ如何ノ驕傲兇邪頑愚ヲ
 逞フトストモ功名ハ花上露富貴ハ艸頭霜ノ如
 ク人世ハ頼ミ難キ者ナレバ早ク頭ヲ回ラシ
 テ文明開化ノ域ニ登テ善ヲナシテ福ヲ獲ヨ
 ト云丁ナリ黃庚詩ニ君恩花上露妾心井中泉
 又孟雲卿詩ニ稍々晨鳥翔浙々艸頭霜等ノ句
 アリ皆人世ノ無計丁ヲ云ナリ

偶像之邪神

吧喙士ハカキノ教門ノ徒真神ヲ崇拜セズ
 或ハ日月ヲ祭り或ハ種々ノ假神ヲ祝禱シ或

ハ木像偶人等ヲ神トス故ニ是等ノ邪神ヲ掃
 ト退テ真道ヲ行ヘヨト云丁ナリ本邦ノ人ノ
 如キハ神教ヲ崇メバ永ク麻ヲ蒙ルト云義ナ
 ルベシ

○地球亦行星論條

剛 端的ノ義ナリマサニト訓ズベシ

○地球圖日成四季論條

四餘七政 五雜俎曰五星之外又有四餘星一曰

紫氣二曰月孛三曰羅睺四曰計都而羅計二星
 人多忌之云々然ラバ四餘七政皆星ノ名ナル

ベシ七政ハ日月五星ヲ併セテ云五星ハ即歲

星星木熒惑星星火鎮星星土太白星星金辰星星水是ナリ

黄道限

所謂回歸線ノ丁ナリ北緯ヲ夏至規ト

云南緯ヲ冬至規ト云地球赤道ヲ距丁南北二

十三度半ノ處ニ行テ進退往來スル所ノ限ナ

リ

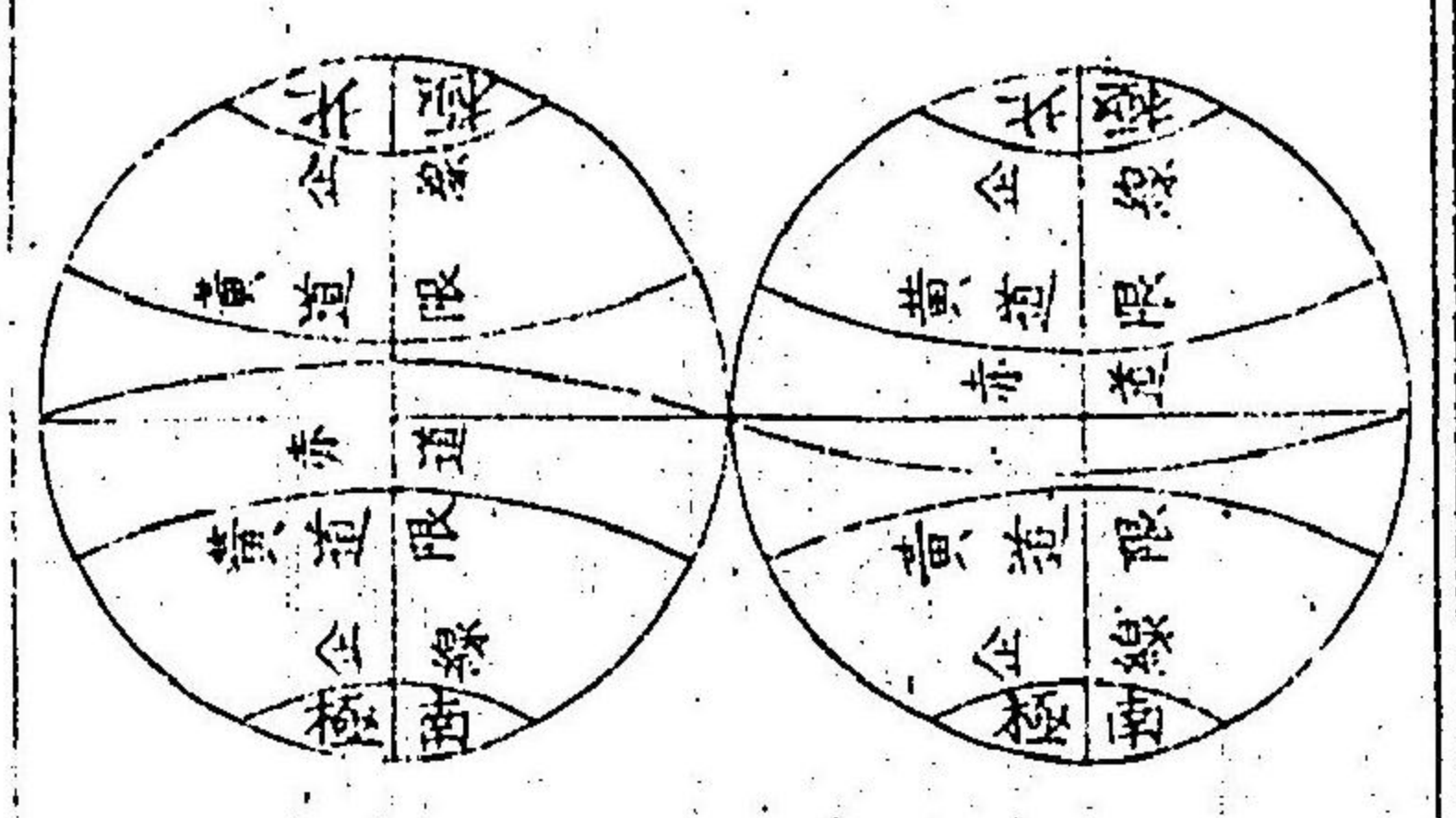
南北二極離企線云々

地球ハ南北兩極ヲ軸ト

シテ旋轉ス故ニ赤道ハ地球ノ正中ニアリ然

ルニ地球ハ北方高クシテ南方低シ常ニ敬側

シテ直ナラス故ニ黄道ト云年圖ハ兩極ヲ距丁



各二十三度半ノ地ヲ軸トシテ南北

ニ貫通ス此軸地球ノ運轉ニ由テ自

圈ヲナス之ヲ極規ト云本編

ニ所謂企線是ナリ故ニ本編ニ兩極

ニ企線ヲ離ル丁二十三度半ト云

へリ上圖ヲ見テ知ルベシ按ニ企ハ

舉踵テ而望也此ニクハダツト訓ズ言ハ足ノク

ハプロヲ立テ望義ナリ地球ノ全体ハ敬側シ

テ恰人ノ企望シタル体ニ似タルヲ以テ此名

アルナルベシ

○月輪圓缺論條

仿^{サモ}如^ニ瓢^ハ上^ニ覆^レ碗^ノ之^ノ形

仿ハ彷彿ノ仿ノ字ト同シ

彷彿トモ髣髴トモ書セリサモニタリト訓ス
言ハ十二三日頃ノ月ノ缺タル形ガ瓢^{ヒョウ}ハ上ニ
碗ヲ覆^フタル様ニ仿^{サモ}如^ニト云コナリ

聞唐明皇嘗於中秋夜遊月宮云々

明皇ハ唐ノ

玄宗皇帝ノコナリ天寶遺事ニ曰開元中ニ帝
由天師ト云仙人ト同ク八月十五夜ニ月宮ニ
遊ビシニ其時月宮ノ門ニ廣寒清虛之府ト書
シタル額ヲ見ラレテ其ヨリ月宮ヲ廣寒宮ト

云シトゾ此故事ハ無稽ノ妄誕ナリト謗リタ
ルナリ

或稱道士洪都客云々

洪都客ト云道士ヤ葉^{セフ}法^フ

喜ト云禪師ヤ羅公遠ト云仙人等ガ種々無稽
ノ恠談ヲ吐テ衆人ヲ欺^ウキシガ益^ト其説ノ誣^ウナ
ルヲ知ルト云コナリ

○月輪本体論條

吳剛伐桂

吳剛ト云者ハ西河ノ人ナリ仙術ヲ

學テ過^ズアリシ故其罪ニ由テ天帝ノ譴^ケ責^セヲ蒙
リ月中ニ高サ五百丈許ナル桂^{カシラ}ノ大樹アリ常

ニ此桂樹ヲ伐シメテ其罪ヲ贖シムルト云

嫦娥奔月

羿ト云人西王母ヨリ長生不死ノ藥

ヲ與ヘラレシニ其妻嫦娥之ヲ竊ミテ仙術ヲ

得タリ因テ月中ニ奔リ去リト云

皆為鳥有之詞

吳剛ヤ嫦娥ノ事ハ皆鳥有ノ詞

ニテ信ズルニ足ラヌコナレバ好事ノ人ハ其

虚誕ナルコトヲ釋然トシテ合点ヲナスデアラ

フト云コナリ按ニ史記ノ司馬相如傳ニ相如

請為天子遊獵賦賦成奏之以子虚虚言也為楚

稱鳥有先生者鳥有此事也為齋難云々鳥有ノ

字面ハ蓋之ニ本ヅクナルベシ

○月蝕定例論條

蟾蜍呑咽

蟾蜍ハヒキガヘルコトナリ漢ノ俗

說ニ月蝕ハ月中ニ大ナル蟾蜍ガ居テ月ヲ吞

ム故ニ蝕カ出來ルト云

人君失德垂象示警

漢說ニ人君德ヲ失ヒ政ヲ

乱ルキハ天ヨリ日月ニ蝕ノ象ヲ垂テ警ヲ示

シ玉フト云コナリ漢土ニテハ蝕ノコトヲ至テ

重キコトニシテ左傳ナドニ莊公二十五年六月

朔日有食之。用牲于社。伐鼓于朝。等ノ事ヲ載タ

リ

家々擊鼓鳴鑼

中華ノミナラズ西洋ニテモ俗
間ニハ日月ノ蝕ハ種々ノ妄説アリテ羅太鼓
ヲ叩キテ蝕ヲ救フナド、云テ大ニ躁グナリ
朝廷ニモ神社ニ幣物ヲ供ヘテ祈禱ナドスル
丁ハ左傳ニモ記シタル如シ此等ノ事ハ皆謂
レナキ丁ノ極ナリト云ナリ

如剪較之形

剪ハハサミノ丁ナリ較ハハサミ
ノ脚ノ十文字ニ重ナリタル丁ヲ云ナリ言ハ
月ノ軌道ト地球ノ軌道ト斜絡シタル形ガ恰

剪ノ脚ノ十文字ニ重リタル如クニナルヲ云
ナリ

○潮汐隨月論條

汎ノ誤ナルベシ字書ニ汎音信シホトキ潮信也トア

リ潮汐滿落ノ丁ナリ

阻欄

阻ハヘダツト訓ス欄ハ手スリノ丁ナリ

言ハ山嘴洲寄ガ手スリノ如ク出張リテ潮ノ滿
落ヲ阻テ邪魔ヲナス故ニ内海ハ外海ニ較ブ
レハ小汎ニナルト云ナリ

○金星論條

長庚啓明

長庚ハ俗ニ云ユフヅ、又宵ノ明星

ト云、啓明ハ俗ニ云、夜明ノ明星ナリ即、太白星

ノナリ詩經曰、西有長庚、東有啓明ト是ナリ

仿類金盤之載彈

言ハ金星ノ日輪ニ背テ重ナ

リタルキ金星ノ背面ハ光ヲ失ヒ彈丸ノ如ク

真黒ニナリ日輪ハ金盤ノ如クニ明カニ見エテ

仿金ノ盤ニ彈丸ヲ載タルニ類シタリト云

ナリ

○火星論條

作廢生

イカバノナリト云、ナリ傳燈

録曰、天柱崇慧禪師僧問、達摩未來時、還有佛法也無、師曰、未來且置、即今事作麼生、是也、蓋佛語也。

○啖咂瘴士星論條

光似粉藍

設采潤色謂之粉澤ト字書ニモアレ

ハ粉藍ハ藍色ノ潤澤アルヲ云

○彗星論條

彗星

彗音衰、光芒短クシテ四出スルヲ彗星ト

云、光芒長クシテ掃帚ノ如キヲ彗星ト云、西洋

ニテ尾星ト稱シテ三種ニ分ソ一ヲ鬚星ト云

二ヲ劔星ト云。三ヲ毛星ト云。皆形状ニ由テ名ツクルナリ

撒

撒音獵折也。撒音蹉。碎也。言ハ星ノ光芒

碎折シテ長尾ヲ曳ニ由テ名ツクルナルベシ

天穹窿

虞曷が穹天賦ニ穹窿如奩ト云リ。奩ハ

鏡ノ蓋ナリ言ハ奩ヲ覆タル如キヲ云ナリ。我

邦歌學家ノ冠詞ニ久堅ノ云々ト云ハ。融形ト

云。丁ニテ融ヲニツニ割テ裏面ヨリ見ルカ如

ク中虚ナルヲ云。彼奩ヲ覆タル如シト云。ニ適

ヘリヒサカタト云。詞ヲ穹窿ニ對タルハ真淵

ハ翁ノ冠辭考ニ見エタリ

逐晚

晚天逐ト云。丁ニテ每晚ノ丁ナリ

其亦杞人之倚歟

列子曰。杞國ノ人常ニ天ノ墜

シ。丁ヲ憂フト言ハ無益ノ心配スル丁ナリ。故

ニ慮ノ過タル丁ヲ杞人ノ憂ト云

○經星異見論條

經星

即恒星ナリ。經モ恒モ共ニ常ナリ。此星常

ニ其處ヲ動カヌ。故ニ此名アリ

永不動桿

桿與彈通觸也。永ク動カヌ丁ナリ

環拱

論語為政章ニ譬如北辰居其所而衆星共

レ之トアリ拱ハ共ト通ズ向合_コナリ字書ニ兩
手合持_テ曰拱トアリ

○衆星合論條

張騫乘槎之事

前漢、張騫ト云、人月氏國ニ使
ヒシテ崑崙山ニ登リ槎ニ乘テ天河ニ至リ織
女ノ_モ機石ヲ得テ歸リシト云、故事ヲ附會シ
テ實事ノ如ク訛傳シタルヲ笑ヒシナリ

博物新編記聞中卷終

